

【質問】

・計画事業の具体的な実施内容

3 オープンデータ化された地域資源を有効的に活用し、新たな価値を創造するという「知的創造サイクル」の検証について、

①「知的創造サイクル」による地域の課題解決について郡上地域と高山地域で実証した研究を、他地域へ適応し検証とありますが、他地域がどこかについて想定があれば教えてください。

【回答】

○現在は、岐阜市と沖縄県を想定している。

○飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ並びに郡上白山文化遺産デジタルアーカイブにおいて、以下のような効果を得ている。

■実証した研究成果

→飛騨高山匠の技デジタルアーカイブについては、令和4年度に20,947点の新規資料を追加し、全体で100,113点の資料を収集した。

→郡上白山文化遺産デジタルアーカイブについては、令和4年度に12,004点の新規資料を追加し、全体で84,029点の資料を収集した。

→これらの地域資源デジタルアーカイブを更に収集すると共に、他地域や他分野への展開を考えていかなければならない。

→これらの地域資源を教育に生かすために、岐阜県立郡上北高等学校で、これらのデジタルアーカイブを活用した高等学校におけるモデルカリキュラムを開発し、令和5年度より学校設定科目として「デジタルアーカイブ」という科目を全国初で設定し、デジタルアーキビストの養成を始めることになった。

→岐阜県立郡上北高等学校とは、2021年7月5日に、デジタルアーカイブに関する教育プログラムの開発、並びに教材開発研究等における白山文化遺産デジタルアーカイブの相互活用その他連携を推進することにより、それぞれの教育活動の充実を図ると共に、地域課題の解決に寄与することを目的として、連携協定を締結している。

→また、地域資源デジタルアーカイブを活用した動画を作成し、中部国際空港の国内線並びに国際線（英文）並びに郡上市の道の駅にデジタルサイネージを設置し、県内の地域の伝統・衣食住文化の保存並びに関係産業の振興、観光資源の発掘を目指している。

■ 岐阜市と沖縄県を対象とした理由

○岐阜市とは、デジタルアーカイブにおいて「地域活性化に関する包括連携協定」を令和2年2月3日に締結し、柴橋岐阜市長から、「岐阜提灯や岐阜和傘などの伝統文化産業をはじめ「本物志向の観光街づくり」の推進に大いに期待している」との話があり、松川学長は、「本学の有する多様な知を岐阜市における地域課題と結び付け、独創的、先進的な取組みにチャレンジしていくと応えました。本学はデジタルアーカイブを始めとする大学力により地域貢献に努めて参ります。」と発言している。

○また、沖縄県においては、本学に沖縄サテライト校があり、デジタルアーカイブ専攻の教員も数名沖縄で研究している。ここでは、沖縄伝統文化遺産を既に20,000点収集しており、このデジタルアーカイブを活用した修学旅行を支援するための学習材「沖縄おうらい」を発行し、沖縄の観光産業や、教育資料をデジタルアーカイブし、沖縄の学力の向上に寄与している。本事業において、沖縄文化遺産デジタルアーカイブを整理し、これらの効果を検証し、岐阜市のデジタルアーカイブに活用するために調査する。

【質問】

・【拡充にて実施する事業内容】の②において、岐阜市並びに沖縄文化遺産デジタルアーカイブの構築のための調査とありますが、沖縄文化遺産デジタルアーカイブ構築がどのように当事業の目的（地域課題（の解決に向けた調査・研究）に関連するのかご教示ください。

【回答】

■ 持続可能な地域資源デジタルアーカイブの構築のための調査

○岐阜市並びに沖縄文化遺産デジタルアーカイブの構築のための調査については、沖縄文化遺産デジタルアーカイブを調査し、その成果を岐阜市のデジタルアーカイブに生かすことを目的としている。

○沖縄県においては、本学に沖縄サテライト校があり、デジタルアーカイブ専攻の教員も数名沖縄で研究している。ここでは、沖縄伝統文化遺産を既に20,000点収集しており、このデジタルアーカイブを活用した修学旅行を支援するための学習材「沖縄おうらい」を発行し、沖縄の観光産業や、教育資料をデジタルアーカイブし、沖縄の学力の向上に寄与している。本事業において、沖縄文化遺産デジタルアーカイブを整理し、これらの効果を検証し、岐阜市のデジタルアーカイブに活用するために調査する。

- 特に、2000年代における第1次のデジタルアーカイブブームの状況を見て、第1次のデジタルアーカイブブーム（デジタルアーカイブ 1.0）のプロセスから何が問題で、今後何をどのように改善することが持続可能なデジタルアーカイブ（デジタルアーカイブ 2.0）を開発するために必要であるかについて調査することが必要である。
- 具体的には、「Wonder 沖縄」における Web 用コンテンツがなぜ消滅したかについて調査することにより、「Wonder 沖縄」のアーカイブプロセスでは何が足りなかったのか、どうすれば持続可能になったのかを考察することにある。
- この「Wonder 沖縄」は、平成 14 年度沖縄デジタルアーカイブ整備事業により制作されたデジタルアーカイブで、当時、整備費用は、国庫からの補助金 10 億円を含む 15 億 5369 万 3000 円(県は 3 分の 1 負担)で整備された当時の国内最大のデジタルアーカイブである。
- しかし、平成 22 年度末(2010 年 3 月末)をもって Web 用コンテンツの運用停止し、この事業で収集されたコンテンツは全て消滅している。
- この現象は、2000 年代における第 1 次のデジタルアーカイブブームで、全国で構築されたデジタルアーカイブにおいても同様である。
- 岐阜県においても、2000 年代には市町村も含めて多くのデジタルアーカイブが構築された。その当時、岐阜県はデジタルアーカイブの先進県であったが、この岐阜県においても同様に当時のデジタルアーカイブが残っているのは少ない。
- これらの調査により、持続可能なデジタルアーカイブについて調査し、その知見を岐阜市の地域資源デジタルアーカイブに適応する。

■岐阜と沖縄との地域間交流のための沖縄文化遺産デジタルアーカイブの構築

- 本学では、2009 年から岐阜県と沖縄県における遠隔により地域間交流を支援している。具体的には、岐阜県の小学校と沖縄県の小学校との間で行っている。
- 地域資源は地域の財産であり、地域で活動する住民にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。
- それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ触媒として地域に輝きをもたらす。
- ここでは特に、子どもたちによる「地域たんけん」を通じて地域の文化遺伝子を再発見するものとして実施している。
- そのために必須なものが各地域の地域資源デジタルアーカイブである。
- 今後、岐阜県と沖縄県の住民間の遠隔交流を推進し、岐阜の魅力を発信するために、沖縄県の地域資源デジタルアーカイブ構築の調査をする。

■構築した沖縄文化遺産デジタルアーカイブの構築をどのように直接利用して岐阜・沖縄の地域間交流や岐阜の魅力発信等を行うのか

- 2009年の岐阜と沖縄の小学校における遠隔交流学习の実践では、岐阜と沖縄のWebサイトを作成し、岐阜は沖縄の地域を調べ、岐阜と比較させることによって、地域の特色なりプライドの醸成を行ってきた。【資料1】
- この実践で分かったことは、地域を知るということは他の地域との比較により地域探究に重要であるということであった。
- 岐阜県の高校の70%は沖縄に修学旅行に行くといわれている。沖縄の文化を知り、実際に体感することは、岐阜の地域の学習の深化に繋がる。
- 以前から、岐阜県郡上北高等学校において、本学と協働して郡上白山文化遺産デジタルアーカイブを構築し、来年度から、これらのデジタルアーカイブを活用した学校設定科目を実施する。
- この郡上北高等学校も修学旅行に沖縄を計画していることから、修学旅行に向けて沖縄文化遺産デジタルアーカイブを活用した沖縄の文化を探究させると共に、沖縄と岐阜を比較することによりより深く地域の学習を進めることができる。
- 今後、沖縄の文化遺産デジタルアーカイブの構築を、郡上北高等学校とも協働して進め、遠隔交流学习に発展させていく予定である。【資料2】